

どうぶつこうえんニュース

Chiba Zoological Park News

No. 19



どうぶつと私…(14)

Animals and I

犬年に因んで For the Year of the Dog

小川 文生

元千葉県社会部長
現千葉県肢体不自由児協会理事長



最近とはみに動物愛護の思想が普及しては来たものの、昨年は痛々しい矢がも等の動物虐待のことなどもあって、まだまだ日本人の考えの浅さを知らされた。といって私がとり上げるような動物愛護の実践をしているわけではないが、思い出の「コロ」のことを犬年に因んで書いてみようと思う。

私の家でまだ子供達が幼かった頃、迷い犬が居着くようになり、子供達はよいお友達を得たと大喜びで遊んでいた。子犬だったので名前を「コロ」と呼ぶことにし、年賀状の家族の写真にも「コロ」が顔をだすようになり、家族の一員であった。やがて初代も二代も何処かへ姿を消したので、三代目を飼うことにした。三代目の「コロ」も子供達のよいお友達で、子供達の行く処へは必ず「コロ」がお供をしているのであった。

ところがある時健康を害したらしく苦しうであったので、近くの動物病院に連れて行ったところ、既にジステンパーで病膏盲に入るといわれ、止むを得ず自宅療養していたが、朝夕その苦しうな様子を見ていた家族一同哀れを覚えたことであったが遂に死亡、再び犬を飼うことは中止し、以来犬と絶縁した。

「コロ」の遺骸は近くのお寺にお願いして犬の墓地にねんごろに納めたのであった。

その後、わが家の年賀状の写真には犬の顔が見えなくなり、犬の様子を聞かれることも度々であった。

「コロ」は今も安らかに眠っていることであろう。

話は代わりますが私の俳句仲間には犬をこよなく愛し、犬の俳句では他の追従を許さない。句会で犬の句が出たら即ち久子の句だと皆から敬愛されていた。

平成3年「あがた句集」より 吉田 久子

尾を振ってつき来る犬や冬温し
初スキー犬も後からついて来し
老犬の小舎にもかけぬ注連飾

目 次

表紙 ホオジロカンムリヅル…… 1

どうぶつと私 14 …………… 2
「犬年に因んで」

グラビア …………… 3
アカカンガルー

特集 識別のお話 2 …………… 4

写真コンクール入賞作品…………… 5

飼育レポート

メスローランドゴリラの
尿中性ホルモンの測定と…… 6
性周期の調査

動物公園の動物 14 …………… 7
動物公園の植物 4

動物公園日誌から…………… 8

飼育よもやま話…………… 10

健康管理センターから …………… 11
平成6年度行事予定表

表紙の動物説明

ホオジロカンムリヅル

アフリカ東部から南部に生息する小型のツルで、後頭部に冠のような羽毛があり、頬が白いのが特徴です。湿地に棲み、好んで耕地でバッタなどの昆虫を採食します。

撮影・宮川 千尋

動物飼育数

哺乳類	72種	434点
鳥 類	94種	401点
爬虫類	5種	24点
両生類	1種	2点
魚 類	2種	16点
総 計	174種	877点

(平成6年1月31日現在)

アカカンガルー

Red Kangaroo

有袋目 カンガルー科

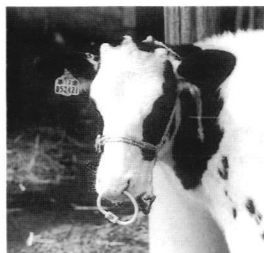


オーストラリアなどオセアニア地区に分布している約120種の有袋類を代表する種類で、この仲間では最も大きく、その体重は90キログラムにまで達します。最大の特徴は、未熟で産まれた子供をおなかの袋で育てることでしょう。現地では、牧草地を荒らすと言う理由で毎年何万頭も殺されておりますが、ちなみに2,000万頭以上が生息しているとされています。

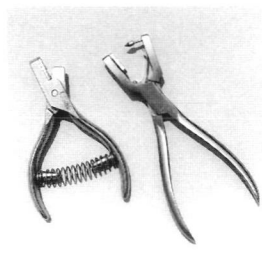
宗近 功 (Isao Munechika)

今回は家畜の識別についてお話しを進めます。家畜とはウシ、ブタ、ウマ、ニワトリなどの馴染みぶかい動物達です。

これら家畜に人工的に付けられる識別方法として、大型家畜のウシやブタには『耳タグ』と言われる耳に付けるワッペンがよく使われます。女性が耳にピアスをしますが、方法はこれと全く一緒に、耳たぶに穴を開けて装着します。一般的に使われるのはプラスチック



耳タグ



小動物用イヤーパーンチ

ク製で、1つ1つ違う番号が付けられていて、その番号で識別を行います。またプラスチック製ですから色が付けられますので色の違いでも識別が可能です。子ども動物園内のウシがこの耳タグを付けているので一度ご覧下さい。大型の家畜の識別法で、最近はありませんでしたが、焼烙（焼きごて）という方法があります。いろいろなマークや文字の形をした鉄を焼いてウシのおしりなどにおしえて、跡を残す方法です。外国のように広大な牧草地で沢山のウシを飼うところではまだこの方法が残っています。焼きごての場合は一頭一頭の識別というよりは、所有者をはっきりさせる目的の方が主流です。家畜の原種ゾーンの2頭のフ



ラクダの焼烙（しょうらく）

タコブラクダは中国で家畜として飼われていたものを輸入したのですが、焼烙がおされています。夏になると長い冬毛が抜けて焼烙が見えるようになります。このラクダの場合2頭それぞれ違う番号が押されているので個体識別用につけられた焼烙かもしれません。その他ブタで耳タグの他に、前回マウスで紹介したのと同じ耳パンチや、ニワトリには脚につけるリングや翼の付根につけるリングなどがあります。リングには番号がほりこんであります。しかし多くの場合ニワトリは1羽1羽ケージ(カゴ)に入れて飼われているのでケ

ージに番号がついていれば、ケージの番号でわかります。

これら人工的に付けた識別は後で変更が可能です。識別の目的によっては変更できない事が必要になる場合もあります。競争馬やウシなどその血統が1頭1頭の価値に影響する動物がいます。このような場合変更可能な方法での識別をした場合、悪用される場合があります。そこで絶対に変更ができない『産まれながらの体の特徴』を使用します。日本ではウシ（和牛）の血



図-1 ウシの鼻紋

統登録に鼻紋を使います。図-1は子ども動物園のウシの鼻紋です。2枚とも違うのがわかるでしょうか？。人間の指紋が1人1人違う様にウシの鼻紋も1頭1頭違うのです。ウシでもホルスタインという種類は全身が白黒の斑ですので、この模様の違いで登録をします。競争馬はさらに複雑で色々な体の特徴を組み合わせて登録をします。まず全体的な毛色、そして頭と脚の白斑の形と大きさ、旋毛（つむじ）の位置、その他微妙な毛の濃淡の場所などこれら全てを余すことなく記載して登録を行ないます。この様に絶対間違いがあってはならない識別はあとで「動物園での識別」でまた詳しく紹介します。さて近年では技術の進歩により以前では考えられなかった識別が可能になってきました。発信機を使う方法です。広大な牧場で飼育される沢山のウシの首輪に発信機をつけます。このウシが餌場に來たとき機械が自動的にこの発信機の番号を読み取り、それぞれのウシに必要な餌の量が自動的に出て、食べた量を計り、食餌制限や採食の時間、回数の調査など家畜の細かい管理までが可能になってきました。この発信機はさらに改良が進み、体の中に埋め込めるもの（マイクロチップ）までが開発されています。欧米ではペットの盗難が多いのですが、それが盗まれた自分のペットかの証明が困難でした。このマイクロチップを使用する事によりマイクロチップの番号を登録しておけば動かぬ証拠となります。このマイクロチップは欧米では大量に飼育されているウシにも使われていますし、かつては個体識別など困難だった養殖魚にも一部使われて、成長の度合いの追跡調査を行ない、適切な飼料や成長剤の投入が行なえるようになってきました。

今回は「動物園での識別」を中心に話しを進めます。

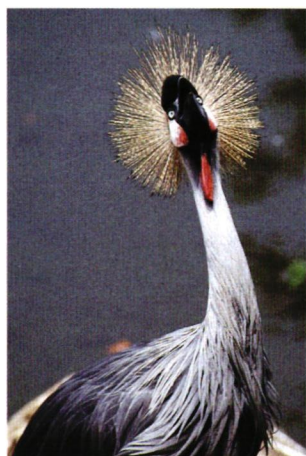
動物公園写真コンクール 入賞作品

PHOTO CONTEST

金 賞
「親子」▶
市原次男



銀 賞
◀「自慢のカムリ」
清水勝彦



銀 賞
「ひるね」▶
吉野 巖



銅 賞
「或る表情」
小松陽一



銅 賞
「はくのひる寝スタイル」▶
鍛冶田茂郎



銅 賞
「もう寝たの？」
岩瀬 清



回を重ねる毎に、「写真コンクール」の応募作品の数が増えた分だけ、ポイントを絞った素晴らしい写真が沢山見受けられました。

限られたスペース、金網や柵が周囲にある中で動物園での写真は、一見すると簡単に写せそうで、本当は大変むずかしいのです。不要な部分を省いて、必要なところだけを切り撮るということ、そして親子の愛情あるシーンやポーズの面白い瞬間を狙うということは、時には大変時間がかかる作業なのですが、上位入賞作品はそれぞれに、グッドタイミングな瞬間を見事に写し止めています。

これらの入賞作品を参考として、今年も沢山の写真を応募して下さることを楽しみにしております。

動物・自然写真家 吉野 信



▲
特別賞
「ふれあい」
蟹江将生

飼育レポート

Keeper's Report

メスローランドゴリラの尿中性ホルモンの測定と性周期の調査

Female Lowland Gorilla's Measurement of Sexual Hormone in urine and Examination of Sexual Cycle

動物園はお客さんに楽しんでいただくリクリエーションとしての役割他にもいくつかの役割があります。貴重な野生動物の生態や行動などの調査、研究もその1つです。今回はその一環として当園が行っているメスゴリラの尿中性ホルモンの測定と性周期の調査についてやさしく解説したいと思います。

当園で飼育しているゴリラは、9歳のメス（モモ子）と7歳のオス（モン太）の2頭です。ゴリラのメスも人間の女性のようにメンス（生理）が定期的にあります。そしてそのメンスとメンスの間に排卵があります。この排卵前後に人間にはない発情がおこり、この時期にオスと交尾し精子と卵子が受精すると、その約9ヶ月後めでたく赤ちゃん誕生ということになります。そしてこの一連の行動は性ホルモんに大きく影響されます。

今回調査したホルモンはエストロジェンとプレグナジオールの2つです。この2つのホルモンはおもに卵巣で作られ、人間の女性の体内にも含まれます。エストロジェンはメスの発情を誘起したり、副生殖器官の発育と機能を刺激、促進するホルモンです。プレグナジオールはプロジェステロンというホルモンの1つで、妊娠維持や、またエストロジェンや他のホルモンに作用し、発情に間接的に影響を及ぼします。またプロジェステロンは体温を上昇させる働きがあり、人間

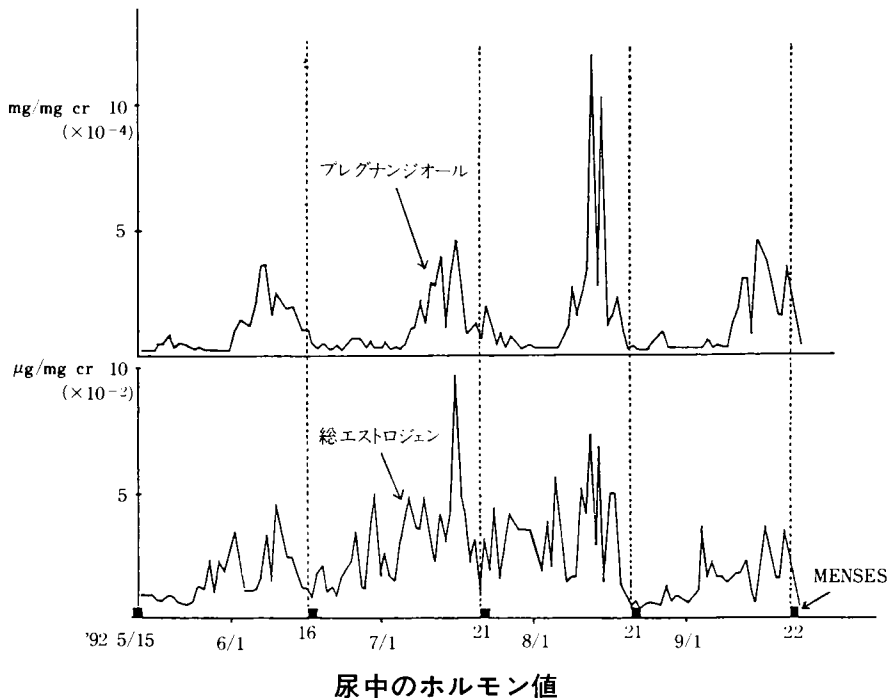
の女性もこのホルモンが分泌される時期には体温が上昇します。そのホルモンの測定結果が下のグラフです。

当園のゴリラの性周期は35日前後で、これはメンスから次のメンスまでの日数から割り出されます。さて問題はその間に排卵がいつあるのかということです。本来、発情とほぼ時期を同じくしてこの排卵が起こるので、発情が観察できれば排卵時期も推察できます。以前はモモ子にも定期的に発情が見られたのですが、この1年ほどあきらかな発情が見られなくなりました。この排卵時期を知ることがこの性ホルモン測定の大きな目的の1つなのです。

エストロジェンは、値が高い日と低い日が交互に現れましたが、メンスが近づくにつれ徐々に高い値を示し、メンスが始まる3日くらい前から下降する傾向がありました。プレグナジオールはメンスが終わってからしばらく低い値を示し、次のメンスの13、14日前から上昇し、4、5日前に下降します。この13、14日前という数字は、以前発情が定期的に見られた発現時期がやはりメンスの13、14日前だったことから、この時期発情そして排卵があるものと思われます。

今後もこのような調査を続け、モモ子の発情、排卵の時期にはオス、モン太とのより良い環境作りをこころがけることが、かわいい赤ちゃん誕生への一歩となるのです。

伊藤 泰志 (Yasushi Ito)



動物公園の動物…⑭

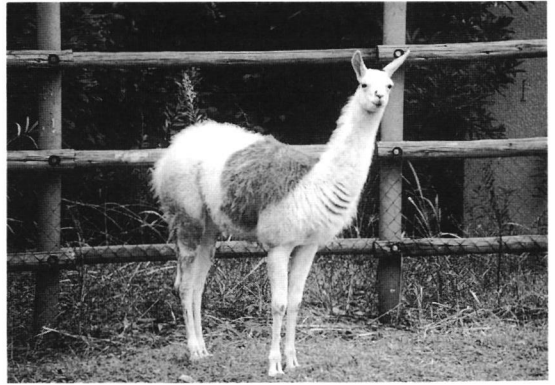
Animals in the Chiba Zoological Park

～ラ マ～ Llama

初めてラマをみた人はラマをどう思うのでしょうか。首や足が長くて顔つきも可愛い、けれど少し変わっている動物と感ずるのではないのでしょうか。でもしばらく眺めると首や蹄の形、後肢が長く見えるところや口もとの感じもよく知っている動物に似ているような気がしてきませんか。

みなさんは少し悩んだ末にラクダに似ているのに気がつかれるでしょう。ラマは背中のかぶこそありませんがラクダの仲間である南アメリカのアンデス地方を中心に飼育されている家畜です。みなさんがラマをみてかぶのあるラクダに似ていると思われた長くカーブした首、裂けている上唇、蹄では体重を支えていないこと、そして胴体と大腿部のあいだには毛が無く後肢が長く見えることなどがラクダの仲間の外観上の特徴なのです。また行動上の共通点に側対歩で歩くことや、興奮すると唾を吐きかけることなどがあります。しかしラマには「ため糞」という共同のトイレを持つというかぶのあるラクダにはない面白い特徴もあります。

ラマが家畜化されたのは大変古く、およそ7,000年前



とも言われていてアンデス地方で莫大な数のラマが飼育され、後にこれが有名なインカ帝国の文化をささえてきました。ラマはおとなしく従順で主に荷役に利用されましたが乳や皮も利用され糞までも燃料として使われました。またラマは大変タフで20～60kgの荷物をアンデスの高地で運ぶことができます。これはラマも血中のヘモグロビンが他の動物より高い酸素供給量を持つよう特殊化しているためでしょう。

このように高地での仕事に適した家畜であるラマも道路の整備や鉄道の発達と共に数が減少してきました。文明の発展と共に減少するのは野生生物ばかりではないようです。

浅野 洋之 (Hiroyuki Asano)

動物公園の植物…④

The plants in the Zoological Park

～サクラ～ Cherry Tree

動物公園内には、サクラと称する樹が1,094本ほどあります。中にはサクラと呼ぶのに戸惑うものもあります。たとえば、イヌザクラやウワミズザクラなどは、一般の人たちが見ても、とてもサクラとしての概念から掛け離れたものも、園内には自生しています。その他、オオシマザクラの類やヒガンザクラの類、またヤマザクラ、サトザクラ、ソメイヨシノなど、約6種類ほどが園内に植えられています。

サクラは、バラ科に属する樹木でバラ科の中では大きな仲間です。花は可憐で、春先、一番人目にとまりますが、その後、夏も近くなると毛虫などが葉に付き、アメリカシロヒトリやモンクロシヤチホコなどの害虫によって、人々から敬遠されがちになります。園内では、家畜の原種ゾーン前の芝生地や緑陰広場などに、ヒガンザクラやソメイヨシノが植えてあります。また、遊園地には、遅咲きのサトザクラを植栽し、遊園地の賑やかさ、としての役割をこのサトザクラが、演出しています。その他、駐車場から動物展示ゾーンを登ってくる途中の斜面林には、既存林の中に、ヤマザクラ



がありサトザクラとは、少し違った落ち着きを醸し出しています。また、古くは、花といえばサクラ、サクラといえばこのヤマザクラを指したようですが、最近では、ソメイヨシノがサクラの代表となっています。園内に数多くあるのが、このソメイヨシノです。ソメイヨシノは全国各地に植えられ、代表的なサクラとなっています。サクラの専門書によれば、ソメイヨシノはオオシマザクラとヒガンザクラの自然交配種というのが、一般的です。

このようなサクラを園内各所に植えていますが、動物公園にお出でになる方たちや、また、動物たちも春の日差しの中で咲く、サクラの優しい色と、暖かい季節を待焦がれていると思います。

本多 啓一 (Keiichi Honda)

動物公園日誌から

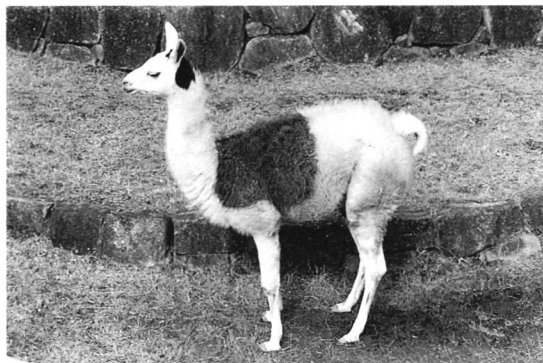
From Zoological Park Diary

’93年 8月1日～’94年 1月31日

8月1日 ヤク、暑さのため動きが鈍い
 “ スレンダーロリス、仔1頭を確認
 8月2日 ミニブタ、3頭繁殖
 8月3日 ショウガラゴの仔、巣から出ているのを確認
 8月7日 ミドリヒロハシ6羽、検疫終了したのでバードホールに放す
 8月9日 抱卵中のコブガモの卵、カラスにとられる
 8月12日 ビグミーマーモセット、雌1頭死亡
 8月16日 ヤギ、ヒツジ放飼場にヨシズを張る
 “ ニシズキンエボシドリ、雌1羽死亡
 8月17日 エミユウの雌、初めて放飼場に出す
 8月18日 スイギュウ舎前にイタチの糞らしき物あり
 8月19日 ヒオドシジュケイ2羽、川崎夢見ヶ崎動物公園に寄贈
 8月20日 フタユビナマケモノ雄1頭、アカテタマリ
 “ 雌1頭新着
 8月22日 「ワンポイントウォッチング」開催（カナダカワウソ）
 8月23日 ホンドザル雄（アポ）、群と分ける
 8月26日 トナカイ雄、袋角がほとんどむける
 8月27日 台風のため、動物を早目に収容
 8月28日 ハートマンヤマシマウマ、雄1頭繁殖
 9月1日 グレビーシマウマに腰麻痺予防薬投与
 “ 動物愛護週間特別展「日本動物誌 ほろびゆく日本の動物たち」開催（～30日）
 9月6日 ハートマンシマウマの仔（エースケ）、初めて仲間と一緒にする
 9月10日 クスクスの仔、初めて袋から顔を出す
 9月11日 ウマ、全頭削蹄する
 9月12日 クロミミーマーモセット、2頭繁殖
 “ 「敬老の日記念行事」開催
 9月14日 イワトビペンギン、換羽終了
 “ ゾウ雄、側頭腺にじみ気が立っている
 9月16日 トナカイ、袋角がむけ始める
 9月17日 餌の青草、ソルゴーにかわる
 9月19日 「動物愛護週間特別講演会」開催
 9月21日 ムフロンの雄、角突き合いを始める
 9月25日 ミケリス雌1頭、新着検疫
 9月26日 スレンダーロリスの仔、親から離れていることが多い
 “ ゾウ、交尾したようだ
 “ 「ワンポイントウォッチング」開催（夜行獣）
 9月27日 ツメバガン、11羽孵化
 9月28日 ケープペンギン、マカロニペンギン屋外展

示とする

9月29日 アカカンガルー、左目がはれる
 10月1日 子ども動物園で初めて、生活実習をうける
 10月2日 ムフロンの、モウコノウマに腰麻痺予防薬を投与
 10月5日 特別展「動物たちの建築」開催
 10月7日 ツメバガン（ヒナ）、1羽死亡
 10月9日 「アニマルスクール」開催
 10月11日 カンムリバト、1羽繁殖
 10月14日 ホンドザル、ツベルクリン検査実施
 10月16日 類人猿獣舎フロアヒーターの温度を上げる
 10月17日 「自然と遊ぶ教室」開催
 10月18日 ツメバガンのヒナ7羽、断翼する
 10月21日 アミメキリン（ヤエ）、流産
 10月23日 アジアゾウ、交尾3回確認
 “ スレンダーロリスの仔、死亡
 10月24日 セスジクスクス、1頭死亡
 “ 「ワンポイントウォッチング」開催（マンドリル）
 10月25日 キジ、猛禽類にニーカッスル病ワクチン接種
 10月28日 今年産まれの水禽全羽に足環をつける
 10月31日 アミメキリン、交尾
 11月3日 「秋のZooクイズラリー」開催
 11月5日 クロミミーマーモセット、1頭死亡
 11月6日 セイロンヤケイ、1羽死亡



11月8日 ラマ2頭新着

“ ゲルディーマーモセット、1頭繁殖
 11月11日 エミユウの卵を孵卵器に入れる
 11月12日 アカコンゴウインコの雌、闘争で上嘴を失う
 11月16日 アビシニアコロブス、流産
 11月23日 強風で園内の枯松が倒れ、フェンスが壊れる
 11月26日 ケープペンギン、1羽孵化
 “ ムフロンの4頭、多摩動物公園より新着
 11月28日 「ワンポイントウォッチング」開催（アミメキリン）
 11月29日 ハシビロコウ、寒くなったので予備室へ収容

- 11月29日 ゾウ、フロアヒーターを入れる
- 11月30日 ミドリヒロハシ、1羽死亡
- 12月4日 飼育センターに今冬初めて暖房を入れる
- 12月5日 子ども動物園のウマ、全頭削蹄する
- 12月6日 ミニブタの仔、ワクチン接種と耳標づけを行う
- " ホンドザル8頭、搬出のため隔離
- 12月7日 オオカンガルーなどの搬出とケーブペンギン6羽、カラヤマドリ2羽の搬入あり
- 12月8日 サカツラガン6羽、搬出
- 12月10日 ルリコンゴウインコ産卵
- 12月11日 ワタボウシパンシエ雌1頭、行川アイランドへ搬出
- 12月12日 ゴリラ雄、サッカーボールを係員に投げ返す



- 12月12日 「クリスマスのついで」開催
- 12月13日 ハートマンヤマシマウマ1頭、鎮静下で削蹄する
- 12月17日 園内、枯松の撤去作業
- 12月18日 ツメバガンの雌6羽に足環をつける
- 12月19日 ホンドザル3頭に入墨を行う
- " 「ワンポイントウォッチング」開催（ゴリラ）



- 12月20日 オジロワシ1羽、多摩動物公園より入り、1羽を姫路へ出す
- 12月22日 ヒオドシジュケイ雌1羽、川崎夢見ヶ崎動物公園に寄贈
- " 徳島市動物園園長来園
- 12月25日 スレンダーロリス1頭死亡

- 12月26日 マーモセット全頭に駆虫剤を投与
- 12月28日 ムフロン雄1頭死亡
- 12月29日 本日から1月3日まで閉園となる
- " 新春特別展の設営始まる
- 12月30日 ルリコンゴウインコ、産卵確認
- 1月3日 カラヤマドリ展示する
- 1月4日 飼育係に新人1名が来る
- " 新春特別展「イヌ科とその動物たち」開催（～30日）



- 1月8日 新春特別行事「もちつき大会」開催
- 1月9日 アカテタマリン、2頭繁殖
- 1月14日 キリン雄（ラガー）、みさき公園へ搬出
- " アフリカハゲコウ、改修工事のためアジア舎へ移す
- 1月15日 ゾウ雄、右側頭腺より多量の分泌液が出る
- 1月16日 「バードウォッチング」開催
- 1月18日 クサガメ、検疫明けでカメ池に展示
- 1月20日 ゴリラ舎室内にハンモックを設置、よく遊ぶ
- 1月22日 シロガオマーモセット、出産するが死産



- 1月23日 エミユウ、2羽孵化、1羽嘴打ち
- " 「ワンポイントウォッチング」開催（ラマ）
- 1月24日 ゴリラ放飼場にヤマモモを植樹
- 1月25日 ゴリラ、放飼場に植えたヤマモモの枝を折ったり、登ったりしている
- 1月26日 アミメキリン（ヤエ）、元気がなくなる
- 1月27日 レッサーパンダ雌、発情が始まる
- 1月28日 雪のため動物を早日に収容
- 1月29日 積雪のため、園内雪かき作業

飼育よもやま話

Animal Episode

ペンギンの抱卵

Penguin's Brooding

嘴に竹をはさみ、短い足を右、左、右、左と巣穴へ急ぐペンギン夫婦。毎朝の清掃のとき、池の周囲から舞い込んだ落ち葉がうすதாகく巣穴の中に積みあげられている。物好きにとその都度水で洗い流していたが2日、3日と日を迫うにつれて『待てヨ！、もしかして産卵の準備では…？』右緑リング、左赤リングのペアだ！、間違いない。平成5年に入って何度か産卵はしたが子供が育たなかったペアです。さっそく、先の丸くなった竹ボウキを解体し、流水で洗い、天日乾燥をした後、巣穴近くに置いた結果、竹を器用に重ね、竹と竹の間に落ち葉が多量に持ち込まれました。そして数日後、朝、夕の食事時に雌が巣穴から出て来なくなりました。自然界では抱卵中の雌はほとんどエサを口にしないというのですが、だんだん寒さが厳しくなりつつあるのに、何かが起きてからでは、取り返しのつかないことにもなりかねません。夕方のエサを他のペンギンに与えてから、巣穴の入口から魚を与えてみました。空腹だったとみえて、あっという間に5匹をたிரげました。魚を頭より少し高めにもっていくと、背伸びをして魚を口にしようとした瞬間、お腹の下に2つの白い卵が見えました。10月21日の夕方のことでした。ペンギンの抱卵は約40日、11月末から12月上旬に産声が聞かれるはずですが、12月4日の朝、卵のカラが巣穴の外にありました。でも鳴き声はしません。次の日から、朝の食事の時、頭数は8つ。残念ながらヒナの姿はありませんでしたが、またというチャンスがあるはずですが。定例のペンギン池清掃をした日、すぐにも巣穴が使用できるよう今まであった巣材を取り除き、汚れを洗い流しました。その後、2〜3本竹を運んではありますが、増えることも減ることもありません。時期尚早だったのでしょうか。本来の産卵は、これからです。ガンバレ！ペンギン…。



横川 まさ代 (Masayo Yokokawa)

エミュウの孵化

Emu's Hatching

動物公園の草原ゾーンにあるオーストラリアの放牧場に、カンガルー達と一緒にエミュウという鳥がいます。お客さんの中には、ときどきダチョウと間違える方もいらっしゃいますが、このエミュウの夫婦に1月2日、ヒナが1羽人工孵化しました。孵卵器で卵をあたためてもらってから52日目の出来事でした。

エミュウは、頭までの高さが1.5〜1.8mぐらいで、羽毛は黒っぽく、ばさばさした感じです。卵の大きさは、長径13.5cm、短径9cmぐらい、重さ700gぐらいの濃い緑色をしています。雌は卵を産むだけで、卵をあたためたり、ヒナの育児は雄の仕事です。本当ならば、親に卵をあたためてもらい、ヒナを育ててもらうのが一番良いのですが、いろいろな問題があり、人工的にヒナをかえしました。

エミュウのヒナは、体形は親を小形にしたようなものですが、羽の色は薄い灰色の地に黒かった色の数本の縦じまがあります。本来ならば、父親と一緒にかえったヒナ達と過ごすのですが、1羽で寂しくないように育すう箱の中には、ニワトリのヒヨコのお友達と一緒にいます。孵化した時の体重は、約390gで、4日目から自分で餌を食べ始めました。小松菜やパンを好んで食べています。ニワトリのヒヨコの配合飼料なども与



えています。父親と一緒にいれば、親について歩くので、脚が強くなるはずですが、でも、狭い育すう箱の中だけではどうしても健康不足になり、体重を脚で支えることができなくなるはずですが。天気の良い暖かい日には、広い場所で散歩をさせています。私達が歩いたり走ったりすると、後から同じ様についてきて、座っていると周りを歩いています。姿が見えなくなると不安の様で、懸命に姿を探します。でも、困った事に、誰の後ろでも追いかけて行く事です。

しばらくの間は、エミュウとの散歩が続きますように…。

足立 仁之 (Masayuki Adachi)

健康管理センターから

From the Animal Health Center

検疫が終わらない!!

In Quarantine!!

動物園では時々、動物の出入りがあります。こちらの動物を他へ出したり、また逆によそからこちらへ入ってきたりします。出す時はそのまま出しますが、入ってきた時はすぐには展示しません。病院で（例外もありますが）しばらく飼って病気を持っているか調べたりします。これが検疫でその期間は普通、霊長類で約9週間、その他の動物で2週間ですが、何かあって終わらなければさらに伸びます。

さて、昨年9月にミケリスというリスの仲間が1匹新しく入りました。見た目はとても元気そうです。さっそく病院で検疫開始。順調にいけば2週間で終わるはずですが、ところで病気を調べる方法のひとつは糞便検査で、糞の中に寄生虫や病原菌がいなか見えるのです。まず糞を顕微鏡で調べると寄生虫の卵がたくさん見えました。これは駆虫剤をやって駆除します。細菌検査は専門の会社に頼んで、1週間程で結果がわかりました。それには病原菌が1種類出ていました。こちらは抗生物質をやります。これらの薬は水に溶かしたり、エサにつけたりして食べさせます。薬を食べてくれず苦労することもあるのですが、幸いなことにこのミケリスは薬を溶かした水もよく飲むし、大好物のオレンジやミカンに薬をつけてやるとよく食べました。こうして寄生虫はすぐに駆除できたのですが、次の細菌検査では別の病原菌が出ました。また別の抗生物質



検疫が終わったミケリス

をやらないといけません。その薬を3日間やって、検査に出して1週間後の結果には、最初の菌がまた出ていたのです!!。薬をやってももとの菌が少し生き残っていて、別の菌がまた別の薬で少なくなると、もとの菌がどっと増えるという繰り返し。まるで“いたちごっこ”です。そのうちおまけに3つ目の病原菌まで出てくる始末。

そうこうしているうち、2週間どころか年を越してしまいました。年末に出した検査の結果は、3種類全部出てしまい、また1からやり直しです。果たしてこのミケリス、皆さんにお目にかけられるのはいつのことなのでしょうか？。

辻村 直美 (Naomi Tsujimura)

平成6年度行事予定表

愛鳥週間記念行事	5月	動物を計る会	10月
羊の毛刈りと紡毛教室	5月	秋のZOOクイズラリー	11月
サマースクール	7月	クリスマスのつどい	12月
動物愛護標語募集	7月	新春特別展示	1月
写真コンクール	応募は10月10日まで	新春特別行事	1月
動物愛護週間特別展示	9月	バードウォッチング	1月
敬老の日記念行事	9月	春のZOOクイズラリー	3月
動物愛護週間特別講演会	9月	動物映画会	日・祝日・春、夏休み中
自然と遊ぶ教室	10月	ワンポイントウォッチング	毎月第4日曜日

くわしくは市政だより（全市版）でお知らせします。



フタコブラクダ